

《会計・税務の知識》 中期経営計画の作り方 (10)

はじめに

中期経営計画の作り方シリーズでは、中期経営計画の概要、全体の手順や考え方を掴んでいただき、シリーズ(5)以降から、経営理念の作り方、という内容でお送りしております。

今回から経営戦略の内容に入っていきます。まずは、経営理念にも通じる、経営戦略の考え方をご紹介いたします。

1. 日本固有の「生きがい」とは

皆さん、「生きがい」はお持ちでしょうか？この「生きがい」という単語は、日本独特の表現となっています。

精神科医である神谷美恵子氏の1966年、『生きがいについて』では、「生きがいということばは、日本語だけにあるらしい。辞書によると生きがいは「世に生きているだけの効力、生きているしあわせ、利益、効験」などとある。

これを英、独、仏などの外国語に訳そうとすると、「生きるに価する」とか、「生きる価値または意味のある」などとするほかはないらしい。

こうした論理的、哲学的概念にくらべると、生きがいということばにはいかにも日本語らしいあいまいさと、それゆえの余韻とふくらみがある。

フランス語でいう存在理由(レーゾンデートル)とあまりちがわないかも知れないが、生きがいという表現にはもっと具体的、生活的なふくらみがあるから、むしろ生存理由 *raison de vivre*, *raison d'existence* といった方がよさそうに思える。」

このように、単語で「生きがい」という表現をする言語が日本独特の感性であることがわかります。

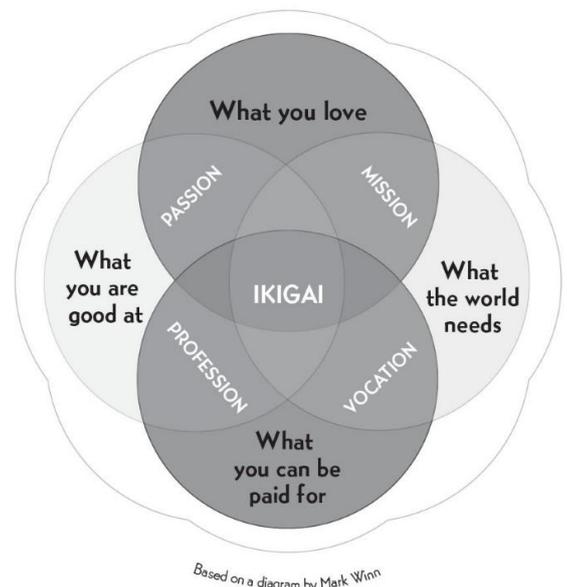
2. 海外から見た“IKIGAI”で理解を深める

日本における「生きがい」は、当たり前のように言語として存在するので、抽象的で捉えづらい。そこで、スペイン人で2004年から日本に住んでいるエクトル・ガルシア氏の“IKIGAI”によれば、

- ① 自分の好きなこと
- ② 自分の得意なこと
- ③ 社会が求めていること
- ④ おカネになること

この4つが重なった部分が、「生きがい」だとしています。

この表現は、非常にわかりやすく、当該ガルシア氏の表現を借りることで、「生きがい」の解像度を上げることができる。



出所：2016, García, Héctor; Miralles, Francesc. *Ikigai* (p. iv). Penguin Publishing Group. Kindle 版。

3. 「生きがい」の経営戦略的アプローチ

この「生きがい」の考え方は、経営理念と経営戦略に直結します。細かな線引きはあえてせずに、ガルシア氏の表現を事業に読み替えれば、

- ① 自社の価値観・大事にしていること
 - ② 自社の得意なこと
 - ③ 社会が求めていること
 - ④ おカネになること
- という整理になります。

おわりに

以上、経営理念にも親和性の高い経営戦略の考察アプローチをご紹介しました。簡単なようで奥深い切り口です。また次回以降、掘り下げていきます。

(担当：横瀬)